

どの子どもも輝く
笑顔いっぱい
とねがわ幼稚園

とね幼だより

よい頭・よい躰・強い体



平成30年12月

生活発表会を終えて

園長 笛木 哲

「もっともっと上手に踊りたい。」「皆に喜んでもらえるような演技をしたい。」という気持ちで園児は練習に取り組んできました。とは言え、放っておいては、そういう気持ちは沸き上がりません。集団の中で、お互いの演技を見せ合い、学び合い、皆で向上したことを喜び合う、そういったことを一つ一つ積み上げていく中で、「もっと上」を目指す気持ちが生まれ、園児は舞台上で輝くことができました。

また、町民会館という大舞台で発表し、「大好きなお家の人に見せるんだ」「喜んでもらうんだ」という気持ちで取り組むからこそ、園児一人一人がやる気を持ち、様々な場面で自分らしさを発揮し、自信を深めました。大きな目標に向かう中で、昨日より今日、今日より明日と、キラキラ輝く園児が心から頼もしく感じる毎日でした。

園児の活躍に目を細め、感動すると同時に、保護者の皆様の様々なご協力（衣装に関する依頼やご家庭での練習等）に心から感謝します。また、当日の園児の表現活動を見ることなく、裏方として華やかな舞台を支えてくれた担任外の教職員（衣装の着付けやトイレの世話、大道具小道具の製作やその運搬、駐車場整理など）の存在もありました。園児を中心に集まった全ての力（「チームとねがわ幼稚園」）が結集し、生活発表会を笑顔で終了することができました。関わった全ての方に、心からお礼申し上げます。

生活発表会は、日ごろの幼稚園生活の延長上にあるものです。毎日この様なことを繰り返し、一つ一つ壁を乗り越え園児は成長しています。生活発表会から1週間、すでに新しい毎日が始まっています。また参観日などの機会に、園児の成長をお見せしていきたいと思えます。



幼稚園で起こったこと（社会の中で「人」として生きるために）

先月号で、「2学期になり、年少児がおしゃべり上手になりました」と書きました。おしゃべりが上手になると、噛みつくとか、手を出して引っ掻くとか、そういうトラブルが少なくなりました。でも、おしゃべりが上手になったからこそ（年少児だけでなく、大きな学年でも同じ）、困った問題も発生します。

畑で働いている職員に向かい、名前を知っているのに、「おじさん!」「おじさん!」と叫ぶ園児がいました。私も「園長!」「園長!」と呼びかけられました。親しさ、と言えはその通りですが、相手を茶化して面白がる気配も感じます。相手が大人ですから、それでも受け止めることはできますが、同じ仲間を「〇〇（名前）はどうして、そんな名前!」とからかう言動をする園児の言葉は、正さなければなりません。すぐに気づいた職員が指導をしたので、言われた子が傷つくことはありませんでした。

言葉にすることができずに、噛んだり、叩いたりした時の傷は、時間の経過と共に治ります。しかし、言葉による傷は、心にぐさりと突き刺さり、その傷は大人になっても癒えない場合があります。優しい言葉（ふわふわ言葉）は相手の心を温かくしますが、間違えた使い方をすると、相手を傷付ける言葉（ちくちく言葉）になります。

ご家庭での言葉は、いかがでしょうか。どんな相手であれ、相手の人格を大切にするという心をもって接すれば、言葉にもそういう気持ちが表れるはずで。言葉を大切にしたいし、そういう園児を育てたいと思います。

園児が輝く時 ※毎日、HP「園長ブログ」で「その日の写真」を掲載しています。よろしかったらご覧ください。

		
<p>まずは教師が意図的に「集団遊び」 「自分」が中心だった世界から、「皆」の中の「自分」を意識する世界に、視野をどんどん広げている園児です。</p>	<p>誰もが皆、芸術家 世界にたった一つの作品が教室に飾られます。「君らしい絵だね」と褒めると、どの子どもも「にこっ」と微笑みます。</p>	<p>お帰りのバス エントランスで一人一人の園児を確認します。バスの中でも名簿と照らし合わせます。それが命を預かる責任。</p>
		
<p>幼稚園にいる全ての大人は『先生』 担任になるには資格が必要ですが、園児を大切に思う大人は、園児にとって誰もが「先生」です。時に笑顔で、時には怖い顔で。</p>	<p>「見て見て！一人でもできるもん」 ブラウスのボタンを、時間をかけて外す子。時間の長短は関係なく、『できたこと』が自慢です。だから「見て」欲しいのです。</p>	<p>季節の花が届きました 今月もまた、登園する園児に冬の訪れを伝えてくれる花を贈ってくださった匿名の方、ありがとうございます。</p>

園児（年少児）のことばから

- 春に咲くチューリップの球根を植えました。帰りの会で「今日は何をしましたか。」という担任の質問にA君は、「今日は、土の中に(球根を)埋めて、咲かないようにしたんだよね。」と答えました。きっと土の中に埋めたので、もう出てこれなくなっと思ったのでしょう。
- B君が、「明日、水族館に行くんだ。駒林先生と園長先生を連れて行ってあげる。」と。連れて行ってもらえないのは分かっているけど、その優しい言葉で水族館に行った夢を見ました。
- 朝の挨拶で、「生活発表会は、ありがとうございました。」と頭を下げる子がいました。その子の後ろにいらっしゃる保護者の優しいお気持ちに心を打たれました。